

心豊かなたくましい子どもをはぐくむための、  
協働参画意識を高める学校経営と校長の在り方

A地区

## I はじめに

学校は、確かな学力や体力・健康などの基礎的・基本的な力を培いながら、夢をはぐくみ、自分の目標に向かってチャレンジする心豊かなたくましい児童の育成に取り組んでいる。

しかし、多忙化や指導力不足教員といった課題を抱え、地域や家庭の教育力の低下もあり、子どもの学力・体力やコミュニケーション能力、社会参加意識、不登校やいじめなど、数々の課題が浮き彫りになっている。

その結果、本来のねらいを目指した教育活動が難しい状況にもある。このようなことから、よりよい人間性を求め、人や社会と協働しながら自己実現を図る子どもの育成に取り組むことが、喫緊の課題となっている。また、その育成は、地域や保護者との連携を図り、協働参画意識を高めた学校経営のもとに実現されるものとする。

そこで、本研究では、心豊かなたくましい子どもを育てるため、協働参画意識を高める学校経営をいかに実践していくか、仙台市内の小学校の特色ある実践事例を収集・分析することにより、望ましい学校経営と校長の在り方を究明していく。

## II 研究のねらい

協働参画を意識した学校経営の特色ある実践事例を収集・分析し、「心豊かなたくましい子どもをはぐくむ学校経営と校長の在り方」を明らかにする。

## III 研究の進め方

### 1 第1年次（平成19年度）

心豊かなたくましい子どもをはぐくむため、協働参画を意識した学校経営の現状についてアンケート調査し、校長としての課題を探る。

- (1) アンケート調査の実施
- (2) アンケート結果の分析
- (3) 課題の抽出

### 2 第2年次（平成20年度）

浮かび上がった課題について、協働参画の先進的な実践事例を収集・分析することにより、心豊かなたくましい子どもをはぐくむ学校経営と校長の在り方を明らかにする。

- (1) 課題から実践事例を分析する
- (2) 校長の在り方を明らかにする

## IV 研究の概要

### 1 課題

特に、関心が高く重要であると思われる4点の課題について、協働参画の先進的な実践例を取り上げる。

- 地域・保護者との課題や教育理念の共有の仕方（事例1～）
- 地域・保護者の思いや願いを把握し、協働参画を推進する学校評価の在り方（事例2～）
- 学校の主体性の維持と協働参画の内容（事例3～）
- 教職員個々人への意識改革を促し、参画意識を高める工夫（事例4～）

### 2 課題にそった実践事例

#### ○事例1

地域・保護者との課題や教育理念の共有の仕方 ～「自分づくり教育」～

#### (1) 校長の願い（ビジョン）

今日的課題（家庭・社会の状況、児童の発達上の問題）と児童の実態から、未来の自分づくりに向けて自立する力を育み、自己の将来や未来に希望を抱き、「自己実現」のために一生懸命に努力する児童の育成を目指す「自分づくり教育」に取り組む。また、児童一人一人の成長を保護者相互の理解をとおして見守り合うとともに、地域・保護者自らが、地域の中で児童を育てるという意識も高めていきたい。

## (2) 取組の概要

### ①学校の内部への働きかけ

#### ア 体制づくりの推進

教頭・教務主任・研究主任との情報の共有、主任層への指導助言、教職員への指導助言、組織的な取組（授業参観、研修の実施）

#### イ 指導計画作成への指導助言

地域・保護者対象（体験活動協力）へのアンケートの実施

#### ウ 実践授業への指導助言

情報の収集と提供、外部支援団体のプログラムの活用と自校化

### ③学校の外部への働きかけ

#### ア 地域のサポートづくり

実践の説明と協力依頼

#### イ 保護者への協力依頼

できるだけ校長から直接話をして、保護者の役割意識や家庭生活の意義を見つめ直すための情報とした。また、家庭での基本的な生活習慣の指導（早寝・早起き・朝ごはん）を保護者にも意識してもらうようにした。

#### ウ 近隣校との連携事業の推進

「自分づくり教育」との関連から、校長同士、共通理解の下、教務主任を中心にして連携面で具体化を図った。職員には、職員会議等で情報の共有を図った。

## (3) 成果と課題（○＝成果、△＝課題）

校長のビジョンを明確に示し、実践しながら職員の理解を深め、体制を整備していった。校長として条件整備に取り組むことで、職員の不安の除去や意欲向上に通じた。

○ 校長の方針が明確であり、全職員に具体的に示されて共有された。

○ 教頭を始めとして主任層の理解が得られ、全校的な取り組みへとシフトできた。

○ 保護者・地域の方々の理解が得られ、学校の特色ある教育活動の一つになっている。

△ 支援団体や地域・保護者のサポートの方々との十分な打合せの確保（時間と必要な回数）が必要である。

△ 中学校区内の学校との交流・連携につ

いて、さらに実践を続ける。

△ 保護者・地域の方々の参加・協力への働きかけを継続する。

## ○事例2

地域・保護者の思いや願いを把握し、協働参画意識を推進する学校評価の在り方

～学校評価を基盤とした学校経営の在り方～

### (1) 校長の願い（ビジョン）

学校は、組織として、夢に向かって挑戦し続ける心豊かな子どもを育てることに努力していかなければならない。そのためには、教育活動や学校評価の公開をとおし、教職員だけでなく地域や保護者との連携を図り、協働参画意識を高める学校経営を組織的・計画的に進める必要がある。そこで、保護者や地域から信頼される学校づくりに取り組んでいく。

### (2) 取組の概要

#### ① 学校の内部への働きかけ

##### ア 教育活動や学校評価の積極的な公開

学校と保護者・地域との共同事業の姿勢を共有してもらうように働きかけた。

- ・ 信頼される学校づくり
- ・ 学校評価の工夫改善  
評価を基盤とした学校経営
- ・ 学校評価の活用  
ずれから共通課題の認識へ

##### イ 学校評価結果からの課題の把握

校内における校長の学校評価と関連させた学校経営方針等の推進を図った。また、学校評議員の人選に当たっては、活用と評価の目的別人選に変更した。

#### ② 学校の外部への働きかけ

校長の経営ビジョンを随時伝える工夫をするとともに、学校職員が一体となって組織的に取り組んでいる姿勢を示した。

##### ア 保護者・地域への「学校づくり」活動の啓発

- ・ 「学校のいつでも公開」の姿勢の発信、教育ビジョンの公表（教育説明会）、学校webページの活用（教育活動の公表）、要望、意見への対応（記名による責任ある評価、学校としての責任あ

る回答と改善策), 啓発事業の実施 (学校保健委員会の公開, 外部専門家による地域・保護者向け講演会の実施)

### (3) 成果と課題

- 開かれた学校の実現に向けて, 全ての教育活動の公開を行った。
- 外部からも内部からも評価を取り, 相互にリンクさせることで, 学校の課題がよく見えた。
- 学校運営の評価に関する外部からのアンケートは, 振り返り資料として活用できた。
- アンケート項目に家庭での教育に関することがあり, 保護者にとって家庭教育を振り返ってもらう機会になった。
- △ 保護者の協働参画意識の広がりが難しい。
- △ 地域, 家庭の教育力向上への取組を継続する。
- △ 評価回答数の減少の対策を講じる。
- △ 児童評価との関連付けが弱い。
- △ 学校評議員活用の仕方 (学校関係者評価の在り方) を工夫する。

### ○事例3

学校の主体性の維持と協働参画の内容  
～英語活動～

#### (1) 校長の願い (ビジョン)

児童の実態について, 教師から「進んで考えを発表するようにしたい」「お互いに考えを述べ合って議論できるようにしたい」など, 「かかわる力」を高めたいという思いが反省としてあげられた。そこで, だれとでも進んでかかわり合おうとする子どもたちに育てたい, という教師の願いを具現化するため, これからの新しい教育課程に位置づけられる重要な取組の一つとして外国語活動 (英語活動) に取り組んでいきたい。

#### (2) 取組の概要

##### ①学校の内部への働きかけ

ア 新しい動きに対応する力の育成

##### i) 英語活動

資料を提供し, 教頭・教務主任・研究主任への働きかけを行った。メリット(英

語活動の力を付けるためのよい機会, 予算的にも保障されることなど)を前面に出して話し合った。これらからの新しい動きに対応できる力を身につけるという意識を共有し, 学校の主体的な姿勢を示すよい機会ととらえて働きかけた。

##### ii) 研究の方向性

調査研究への協力とその結果の分析から研究の方向性を定める指針が得られた。

##### iii) 資料の提供

校長も研究推進委員会に出席し, 資料の提供を行ったり, 意見を述べたりすることで意識を共有できた。

##### iv) 環境の整備等

校長は, 教頭・教務主任・研究主任・事務長等の情報を得ながら, スムーズに行われるように働きかけた。

##### v) 職員への働きかけ等

校長は, 教頭・教務主任・研究主任からの情報を得るとともに, 自らも研修会に参加し, 共に学ぶ姿勢で臨んだ。また, 県外からの研修視察を受け入れることで, 英語活動の取組の方向性の確認や他校の情報の収集ができた。情報を外に発信することは, 協働で行っているという意識を高めることにつながった。

#### ① 学校の外部への働きかけ

ア 関係機関と連携, 条件整備

- ・ A L T配置の希望, 申請
- ・ 教育指導課や教育センターへの指導要請, 教科指導員の派遣要請
- ・ 研修会への講師派遣要請
- ・ 中学校との連携 (A L Tや英語担当教諭の派遣)

イ 授業公開等の情報発信

- ・ 自主公開, 授業参観

#### (3) 成果と課題

○ 自主公開や授業参観での英語活動の授業公開をしたことにより, 教師の意識を高めることができた。

外部へ情報の発信が, 外部からの大きな力となって跳ね返ってくるということを実感でき, それが自ずと教職員個々人の意識改革を促し, 協働参画意識を高めているよ

うに思う。

△ 反省を生かした取組を継続するとともに教職員の意識を高め、子どもの教育に一人一人が主体的にかかわる働きかけを続けていかなければならない。

#### ○事例4

教職員個々人の意識改革を促し、参画意識を高める工夫

～学校改革プラン作成～

##### (1) 校長の願い（ビジョン）

校長として、諸々の条件から、課題を把握し、願いを検討した。そこで、ゆとりの中で子ども一人一人に力を培うことのできる学校づくり、自分を拓き、強く生き抜く力を持つ地球人の育成をとおし、自分づくりの旅ができる人間づくりを目指したい。

##### (2) 取組の概要

①学校の内部への働きかけ

ア リーダーシップの発揮

イ 教育情報の収集・提供

ウ 主任層への働きかけ

1年間を下記のように5段階に押さえ、働きかけた。

- i) 「なげかける」・・・経営課題の提示
- ii) 「たちあげる」・・・脱20世紀型学校づくりのプランを作る有志の会の立ち上げ
- iii) 「話し合う」・・・校長直属の委員会を設置し、夏休みを中心に8回の話し合いを実施
- iv) 「まとめる」・・・情報の共有、職員会議での話し合い
- v) 「周知する」・・・2月の学校説明会で学校改革プランの説明

②学校の外部への働きかけ

ア プランの説明

イ 協力依頼・・・iii) iv) v) の段階からPTA役員、学校評議員への説明及び意見を求める。2月の学校説明会で学校改革プランの説明や協力依頼を行う。

##### (3) 成果と課題

- 学校改革プランができた。
- 授業時間確保などによるゆとりの確

保、学級カリキュラムなどでの授業の質の改善・児童の変容、教師が児童と保護者に真摯に向き合うための環境づくりなど教師を変える体制が整った。

△ 1年目（プランの立案）、2年目（手探りの実践）、3年目（確かな手応え）ととらえ、協働参画意識を高めるには時間が必要である。

△ 確かな情報の入手、確かなものを真似から創る経営実践、改善・改革に対する舵取り、主任層の教員を前向きに転化する努力など、校長の工夫と努力が重要である。

## V 討議から

第48回東北連合小学校長会研究協議会宮城大会第1分科会「学校経営」において、テーマに沿って意見交換が活発に行われた。

協働参画のとらえ方、生き方を教える校長のリーダーシップ、切り口を変えた取組、子どもも教師も口ずさめる教育目標の設定、同じ意識を持って取り組める焦点化した指導、組織を生かす、良きパートナーとしてPTAとの連携の推進、職員の信頼関係づくり・心のつながり、学校経営は人づくりなど多方面から貴重なご意見をいただいた。また、研究では校長の在り方が分かりやすかったという評価をいただいた。

## VI 研究のまとめと今後の課題

心豊かでたくましい子どもを育むために、学校経営にとっては協働参画が必要であるという視点から、実践事例を分析した。その結果、望ましい校長の在り方について下記のことが明らかになった。

- (1) 学校づくりの明確なビジョンをもつこと
- (2) 教職員・保護者・地域とのパートナーシップの必要性を重視すること
- (3) 人・組織・条件整備等の体制づくりに努力すること
- (4) 率先・工夫し、リーダーシップを発揮すること
- (5) 保護者・地域への丁寧な働きかけを行い、課題解決に取り組むこと